あなたの「やってみたい」を応援します!!

ゆめこらぼ通信

第4号
発行
平成21年12月1日
隔月発行

「ゆめこらぼ」は、コラボレーション（協働）によって夢を広げる、夢があふれる空間をめざします

発行　西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ　〒188-0012　東京都西東京市南町 5-6-18　イングビル1階

地域への一歩から

起業、資金調達はこうして

市民活動・
コミュニティビジネス講座

「はじめてでもわかる市民活動・コミュニティビジネス講座」が10月18日から11月8日まで、日曜日ごとに4回、市役所田無庁舎などで開かれました。コミュニティビジネス（ＣＢ）とは、介護や子育て支援など、地域が抱える課題をビジネスの手法を活用して解決するという、夢のある新しい起業のかたちです。

5人の講師の話からポイントを少しだけ紹介します。

◆竹内千寿恵さん（ＮＰＯ法人 Mystyle@こだいら代表理事）

地域活動に参加する私の一歩は公民館でパソコンを学ぶなどお金をかけずにスキルを獲得したり、ＰＴＡなどでボランティアに励んだり。自分を発信すると発見され、発信を続けると信頼が生まれ、ネットワークがつながります。

◆岩嶋寿子さん（キャリアアドバイザー）

価値観（何を大切にしているか）、興味、能力の三つから「なりたい自分」を確認しよう。興味は継続すると能力に変わります。

◆堀池喜一郎さん（ＮＰＯ法人シニアＳＯＨＯ普及サロン三鷹・前代表理事）

女性やシニアが向かうＣＢは①地域をどうしたいかの思いを個性を発揮して実現②地域の生活者であることの強み③収入が多面的④やる気をネットワークで高め合う－が必要。成功例を見ると、今すぐやりたいことがあれば、とりあえず採算が合うことにして始めたり、採算がトントンならば始めたりするケースが多いようです。

◆百田浩さん（株式会社グッドデイズ代表取締役）

ＣＢは、①継続的に事業を続ける（赤字ではダメ）②地域課題の解決につながる活動であること③地域にネットワークでつながることが大事。ＣＢへの思いを具体化するためには、「だれに」、「なにを」、「どう喜んでもらう」を丸と線で表し、「見える化」すると良いです。

◆山下竜一さん（ＮＰＯ法人社会貢献ネットワーク理事長）

資金調達の基礎づくりでは、「何を解決するのか」「満足していただきたい相手は誰なのか」を明確にする。企業の場合、金を出す大義名分を求めている。活動を知ってもらうためには、13文字程度で自分たちの活動を伝えられると認知されやすい。外部からの資金調達は、自分たちの活動のミッション、ビジョン、目標を明確にする必要があります。

盛況、熱気…３６人が受講

ＮＰＯ法人のための会計講座（基礎編）

11月6日、講師に馬場利明さん（税理士・NPO支援会議）を招き、NPO 法人のための会計講座（基礎編）を開催しました**=写真＝**。

当初、定員20人で募集したところ、受付開始日から数日で定員オーバーの盛況。急きょ多くの方の要望に応えるため、会場の収容力いっぱいまで募集枠を広げました。当日欠席の方がでたものの、NPO 法人の認証を得ていない団体を含め36人の参加をいただきました。

講師が準備してくれた資料は膨大で、88ページに及びました。また、2時間半の講義も途中10分程度の休憩をはさむ程度でみっちりの内容でした。質疑応答は個別相談型に切り替え、多くの参加者が最後まで熱心に残っていました。

参加者のアンケートでは、「とてもわかりやすい説明だった」という声が多く、「中級編など次回も開催して」との要望がたくさん寄せられました。

効果的なチラシへ「赤」入れ合おう

次回から　ＮＰＯ・市民活動ネットワーク

「NPO・市民活動ネットワーク」と名称を変えて初の懇談会は11月20日、14人が参加してイングビルで開かれました。

フィリピンのごみ捨て場を生活の場とする住民たちをとらえたドキュメンタリー映画『神の子たち』の上映活動に奔走する「環境まちづくりＮＰＯエコメッセ西東京」の野木たかねさんに、映画上映（11月28日、市民会館公会堂）にかける思いを語ってもらいました。映画の広報活動に関連して参加者からは、次回以降は上映会場に家庭で不要になった衣類を持ってきてもらい、それをフィリピンへ送る。あるいは、国際交流団体の力を借りてフィリピンの方にゲストに来てもらいディスカッションをしては－などのアイデアが出ていました。

このあと多くの団体は、新しい参加者が増えないことを課題に挙げました。解決するには、活動の楽しさを伝えることが大切で、チラシやパンフレットの内容や表現が大きな役割を担うのでしょう。これを受けて、自分が所属する団体のチラシなどを持ち寄り、参加者同士が客観的な目線でそれがどう映るか、どう感じるか「赤入れ」をし合えたら、団体にとって大きな助けになるのでは、という意見が出ました。さっそく次回から赤入れを実行できればと思います。赤入れしてもらいたいチラシがある方は、ネットワーク開始30分前に会場にお持ちください。

懇談会終了後、みんなでパチリ

若者参加どうすれば…

大学生招き　トークサロン

2カ月ごとに身近な話題をテーマに気軽に話し合っている、ゆめこらぼトークサロン。11月26日には武蔵野大学の学生さんでボランティア活動にかかわっている男女2人を招いて開きました**＝写真＝**。

今回のトークサロンには、市民活動団体の方々に多くご参加いただき、世代を超えて活発な意見交換ができました。

「若い人のチカラをもっと借りたい」「どうすれば若者に参加してもらえるのか」という問いかけには、学生さんから「まず1人の学生をつかまえれば、その学生が仲間を呼ぶ（口コミ）という形で参加が増えるのでは」という意見がありました。

また、ボランティアにかかわる人を増やすには「市民研究員」とか、「市民サポーター」というような名称を使うことも有効なのではないかという意見もありました。

何よりも大事なのは、活動の楽しさをどう伝えていくかということではないでしょうか。このトークサロンをきっかけに若者との新しいつながりが生まれてくれればと願っています。

ヒマワリの種から 油しぼれた!!

プロジェクトが最終段階

市民有志が春の種まきから学んできた「ひまわりプロジェクト」（東大農場と西東京市の共同事業）が大詰めの段階に入り、11 月 20 日にエコプラザで種から油を搾る作業が行われました。

資源循環型の地域社会づくりと取り組む「西東京菜の花エコ・プロジェクト」の応援を得て、2 時間で6㌔の種から約 1.8 ㍑が取れました。半月ほど前、機械の不調でうまくいかなかったので、「これで天ぷらを揚げられるわ」とリベンジの成功を喜んでいました。

ヒマワリの収穫作業は 10 月 15 日に行われ、花だった部分を自宅に持ち帰りました。家では、カビが生えないようひっくり返し乾燥させたり、何度も強く息を吹きかけて種からガク片を飛ばしたりと苦労が多かったようです。

ゆめこらぼブース、市民まつりに参加

市民まつりが開かれた 11 月 14、15 の両日、「協働」の普及・啓発を目的に、当センターもいこいの森公園ボール広場の一角に初めて出展しました。

機関紙「ゆめこらぼ通信」のバックナンバーや登録団体の刊行物、チラシを置いて配布したほか、子育てママのトークサロンなど今春のセンター開設以来行ってきたイベントの写真とチラシをパネルふうに展示し、興味を持たれた方に説明しました**＝写真＝**。種になって乾燥したヒマワリの〝大輪〟をハチの巣、種を搾った油をはちみつと勘違いする方もいて、「ひまわりプロジェクト」に大勢の方が関心を寄せ、説明に聞き入っていました。

子育てママのトークサロン

「便利マップ作ります」田中さん

「子育てママのトークサロン」の2回目の集まりが 10 月7日、ゆめこらぼであり、パパ1人を含め9人が参加しました。今回は育児関係の情報を集め2008年6月から手書きの「かわら版」（A3判）を発行している「西東京子育てコム」の田中のり子さんをお招きし、活動の様子などを聞きました。

田中さんは「『地域みんなで子育てをしよう』が活動のキーワード」と語り、これから「西東京子育てコム」の仲間と一緒に子ども連れでも困らない店や子どもが喜ぶ身近なスポットなどを盛り込んだ「子育てマップ」を作る計画を披露しました。参加者からは市の掲示板をチェックしたり、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）から情報を入手したりしているという話がありました。

◇子育てママのトークサロンは前回、「１度で終わるのはもったいない。同じメンバーで継続して話し合いたい」との声を多くいただきました。一方で、新規に参加を希望される方も多く、保育の関係などから、両方のご要望にすぐにお答えすることは難しい状況です。今後は、大勢の方々のニーズにお答えできるよう、考えていきたいと思っております。詳細が決まり次第、市報などでお知らせいたします。

○団体登録しませんか？

西東京市市民協働推進センターは登録団体を募集しています。登録はとっても簡単。一度お問い合わせください。これから活動を始めようという方には、会則の見本などをお見せして、団体立ち上げの支援をします。登録団体同士の情報交換・ネットワーキングのお手伝いもします。

□**登録すると**　・メールボックスが使えます！（無料。郵便物の受取先にできます）・サロンコーナーと印刷機の予約ができます！

□**資格**　市内で市民活動をしている団体、またはこれから始めたい団体（構成員２人以上）。事務局が市内にあるか、主な活動場所が市内にある団体

□**必要なもの**　①団体規約または会則　②会員名簿

□**申請書**　所定の用紙に代表者の名前、住所、活動内容などを記入

◇

新たに登録いただいた団体（11月末現在）

▼ダンスサークル M's POWER & K's POWER（ダンスを通して子どもたちの成長を願い、ボランティア活動を通して地域とのつながりをつくり、市の活性化に貢献したい）**▼西東京市福祉推進協議会**（市の福祉の向上と推進を願う人たちが手をつなぎ、地域福祉の充実に向け努力する）**▼フロムジャパン多摩**（和風小物・着物のリサイクルを通じ、国内外の日本ファンを育成し、多摩の地域活性化につなげる）**▼東大農場・演習林の存続を願う会**（動植物観察会などを通して農場・演習林の存在と価値を多くの市民に知ってもらい、環境学習へと活動範囲を広げる）**▼NPO 法人ヒューマンプロジェクトプランニング**（スポーツやリハビリ目的の教室開催やプログラム構築、関連用具・器具の研究開発などを行うことで福祉・健康の増進、スポーツ振興に寄与する）

＜4月からの累計は24団体となりました＞

ゆめこらぼセンター長コラム

話すように書く

鈴木　剛

先日、知り合いと「文章を書くこと」が話題になりました。文章を書くのが苦手という人はたくさんいます。私も苦手意識がありましたが、500 文字くらいなら書けるようになりました（この文章は約 600 文字）。

そこで、私が普段なにを意識して文章を書いているかを明かします。書こうと思うことがなんとなく決まったら、頭に浮かんだ言葉をそのまま文字にします。案外ここが難しくて「この言い回しはおかしい」「つじつまが合わない」という「うまく書こうとする意識」が邪魔をします。その意識をいったん断ち切るのです。私はこれを「脳のフィルターを取り除く」と呼んでいます。フィルターの目が細かいと、言葉のしずくが流れ落ちてこないのです。

うまく書こうとする意識を差しはさむことなく、無心になって自分の心と語り合う。「心の泉」からわき出る言葉を口述筆記していくのです。まずは手書きで一気に書きあげたら、パソコンに向かい、紙に書かれた文字を推こうせずに入力します。それを紙に印刷し、赤ペンで手直しを 3 度ほどして完成です。身近な人に読んでもらうこともあります。私の場合、おおむね手書きに 30 分、修正に 30 分、トータル 1 時間で文章を仕上げます。最後に全体を見渡し、内容をもっとも的確に表現する言葉をタイトルにつけます。このコラムには「話すように書く」とつけてみました。

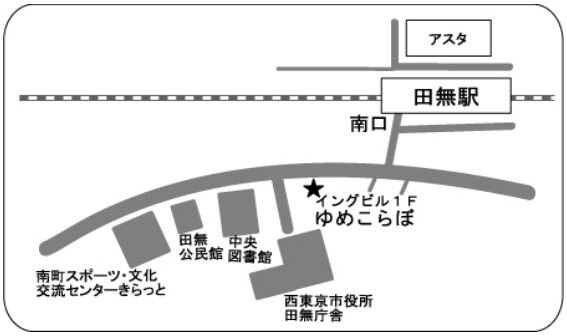
ポイントは三つ。「下手でいい。そこに個性が宿っていると信じる」「内容に価値がないと決めつけない」「書いて伝えることを楽しむ」。

以上を意識すれば、意外と文章は書けるのではないかと思います。

《スタッフから》

○…桜の開花を前に、ゆめこらぼが歩きだしてはや８カ月。振り返ると、イベントや各種の講座など、たどたどしいながらもいくつかの足跡を残して年末を迎えます。一歩ずつ着実に！行く手に待つ夢へ向かって。　（田中）

○…「いろいろなことをやっているんですね」－小紙を手にした方から聞く感想がとても励みになります。２カ月に１度の発行ですが、中身を賞味期限の長いものにして、１人でも多くの方の目に留まってほしい。　（三浦）



開館日：水～月（10時～21時）土・日・祝日オープン
休館日：火曜日・年末年始
〒188-0012　西東京市南町 5-6-18　イングビル1階
西東京市市民協働推進センター　ゆめこらぼ
Tel: 042-497-6950　FAX: 042-497-6951
E-mail: yumecollabo@ktd.biglobe.ne.jp
URL: http://nishitokyo.genki365.net/

☆☆　助成金情報　☆☆

（詳細については助成実施主体のホームページをご覧ください）

◆広域的市民ネットワーク活動等事業助成　【対象】多摩地域で広域的市民ネットワーク活動を行っている団体または西多摩林間地域（奥多摩町など）の振興のための事業活動を行っている団体【助成金額】西多摩地域振興事業と環境保全･リサイクルの推進事業は助成対象となる事業費のうち 50 万円までは 45%、50 万～100 万円までの部分は 30%、100 万円超は 15%として加算。それ以外の新規助成申請事業はそれぞれ 35%、24%、12%として合算【応募期限】12 月 9 日（事前相談が必要）【問い合わせ】財団法人東京市町村自治調査会 多摩交流センター（電話 042･335･0100、ファクス 042･335･0127）

◆防災教育チャレンジプラン　【対象】保育園･幼稚園、学校、地域団体ほか【助成金額】上限 30 万円【応募期限】12 月 21 日【問い合わせ】実行委員会事務局（ファクス 03･3589･1703、Eメール cpinfo2865@bosai-study.net）

◆積水ハウスマッチングプログラムの会　【対象】ＮＰＯ法人ほか【助成金額】こども基金、環境基金ともプログラム助成は原則上限 200 万円、基盤助成は同 20 万円【応募期限】12 月 22 日【問い合わせ】同会事務局（電話 06･6440･3440、ファクス 06･6440･3369）

◆財団法人ヤマト福祉財団障がい者福祉助成金　【対象事業】①障がい者施設の設備費、備品などの購入②各種会議、講演、研修③各種出版、啓発活動など④各種調査、研究、文化･スポーツ活動など【助成金額】1件当たり上限 100 万円【応募期限】12 月 31 日【問い合わせ】同財団福祉助成金事務局（電話 03･3248･0691、ファクス 03･3542･5165）

◆セブンーイレブンみどりの基金　【対象】ＮＰＯ法人または任意の環境市民団体ほか【助成金額】環境市民活動助成のうち活動助成は上限なし、広域連携促進助成は1団体当たり上限 200 万円、自立事業助成は同 440 万円。地域美化活動助成のうち地域清掃活動助成は同 20 万円、緑化植花活動助成は上限なし【応募期限】1月8日【問い合わせ】前記基金（電話 03･6238･3872、ファクス 03･3261･2513）

◆住まいとコミュニティづくり活動助成　【対象】ＮＰＯ法人または任意団体【助成金額】コミュニティ施設の提案･創造、住環境の保全･向上、地域の防災･防犯、入居者参加の住まいづくりなどに対し、一般助成（1年間活動）は1件当たり上限 100 万円、特別助成（事業化へ 2 年間活動）は各年度上限 100 万円【応募期限】平成 22 年 1 月 15 日【問い合わせ】財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団助成係（電話 03･3586･4869、ファクス 03･3586･3823）

◆地球環境基金　【対象】社団法人、財団法人、ＮＰＯ法人ほか【助成金額】開発途上地域や国内における環境保全活動に対し、一般助成は下限 100 万円･上限 400 万～1200 万円、すそ野を広げるための発展助成は下限 50 万円･上限 400 万～600 万円【応募期間】平成 22 年 1 月 4 日～1 月 25 日【問い合わせ】独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金課（電話 044･520･9505、ファクス 044･520･2190）

◆中央ろうきん助成プログラム　【対象】ひとづくり、まちづくり、くらしづくりの分野で、関東圏１都７県を主たる活動の場としているボランティアグループや市民団体（NPO 法人など）【助成金額】①スタート助成（活動開始資金）１団体当たり上限 30 万円②ステップアップ助成（活動展開資金）１団体当たり上限 100 万円【応募期間】平成 22 年 1 月 6 日～1 月 19 日【問い合わせ】中央ろうきん社会貢献基金（フリーダイヤル 0120･86･6956）

◆社団法人全日本冠婚葬祭互助協会社会貢献基金　【対象】社会福祉法人、ＮＰＯ法人、市民ボランティアグループ、大学ほか【助成金額】高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、環境･文化財保全、国際協力･交流の各事業1件当たり上限 200 万円、研究助成事業は同 100 万円【応募期限】平成 22 年 2 月 28 日【問い合わせ】同基金運営事務局（電話 03･3596･0061、ファクス 03･3596･8030）

２０１０年１月の主催イベント

■協働を考えるシンポジウム

安藤雄太氏（東京ボランティア･市民活動センターアドバイザー）が基調講演。協働の先進事例から、西東京市でどう協働を推進するかを考えましょう。

▽27 日（水）午後 2 時～5 時、市役所保谷庁舎 4 階研修室

■トークサロン国際交流編

NPO 法人西東京市多文化共生センター（NIMIC）の山辺真理子さんのお話を聞き、外国人が住みやすい地域をつくるために何ができるかを考えましょう。

▽28 日（木）午後 7 時～8 時 30 分、ゆめこらぼサロンコーナー

■大名刺交換会

市民活動団体やＮＰＯ法人、企業、大学などで地域を良くしたいと活動されたり、関心を持たれたりする方々が大集合。新たな出会いと協働のきっかけを見つけてください。

▽30 日（土）午後 2 時 30 分～4 時、コール田無イベントルーム

ゆめこらぼは

こんなとき、お役に立ちます

☆自分たちの活動をＰＲしたい
☆新しいメンバーを増やしたい
☆退職して今度は地域で役立ちたい
☆市民活動をしてみたい。何から始めよう？　仲間集めから？
☆同じような活動をしている他の団体とつながりたい
☆助成金はどうすればもらえるの？
☆まちづくりに興味がある
☆ＮＰＯってなに？
☆行政と協働したい

みんなの本棚

「物語力」で人を動かせ

平野日出来〈著〉
三笠書房刊

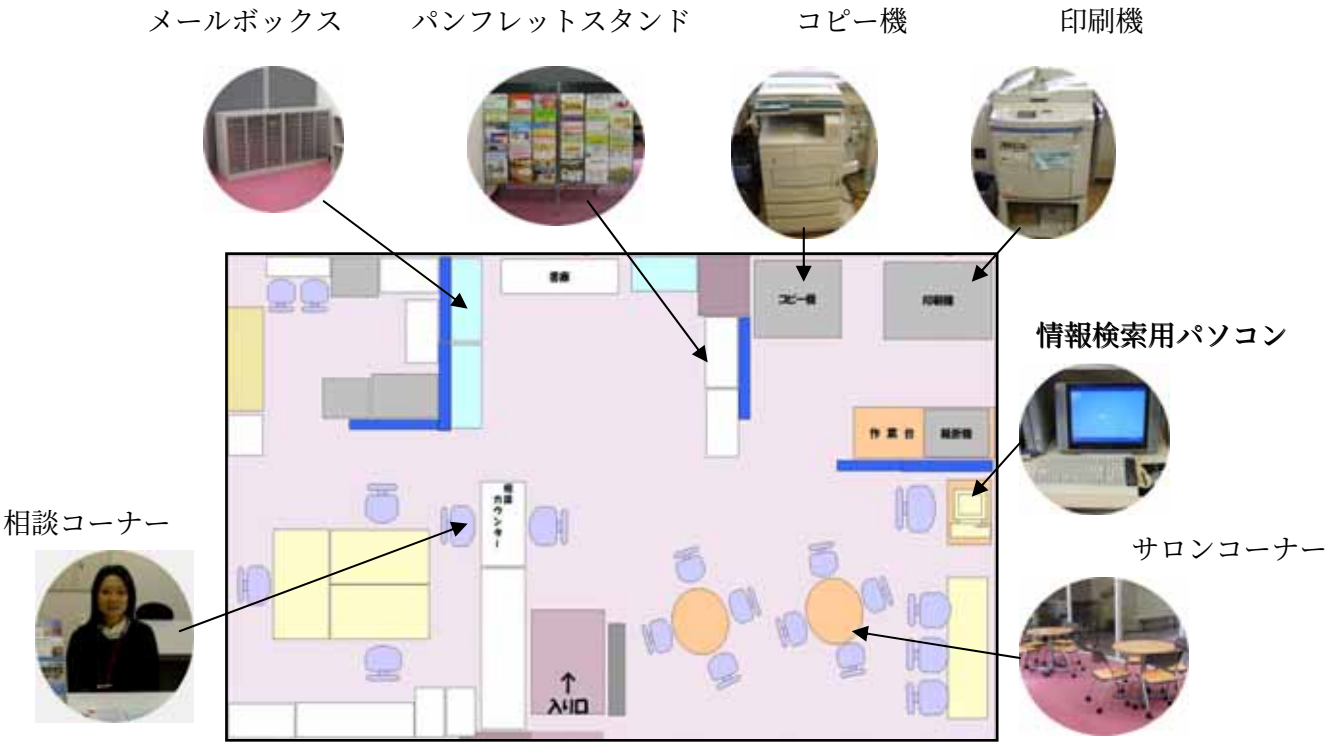
11 月 20 日の第 3 回 NPO･市民活動ネットワークで、「活動に多くの人を巻き込むには、活動の背景を伝えて共感を得なければ」という意見が出た。そこで役立ちそうな 1 冊。

この本に出てくる物語法は「言いたいこと」を「物語形式」で相手に印象づける手法。活動をエピソードとともにうまく語れるかが多くの参加者や賛同者を得られるかのカギとなる。

実例も載っているので、みなさんもご自分の団体の物語を書いてみてはいかがですか。　（鈴木　剛）

○利用できるもの○

印　刷　機	製版代	1 製版につき 35 円
	ｲﾝｸ代	100 枚につき 10 円
	※印刷用紙はお持ち込み下さい	
コピー機	1 枚 10 円	
メールボックス	無料	
サロンコーナー	無料	
ラミネーター	無料（フィルムはお持ち込み）	
紙折り機	無料	



－ゆめこらぼ配置図－